

それぞれの地域では、発生の危険がある災害を想定して防災訓練が行われています。家族や地域の人たちと参加することでどのような効果があるのでしょうか。

調べよう

地域では、どのような防災訓練を行っているのでしょうか。

巨理町で行われた県総合防災訓練

宮城県沖でマグニチュード9の大地震が発生し、1時間後に10mの津波が来たという想定で行われました。町民には、防災無線や携帯電話のメールを使って「地震」の発生が知らされました。



初期消火訓練



津波孤立者救出訓練



炊き出し訓練



避難所開設・避難者対応訓練

気仙沼市小泉地区夜間防災訓練

夜間に宮城県沖を震源とする震度6強の地震が発生し、気象庁が大津波警報を発表したという想定で、夜間防災訓練が行われました。

さらに、多数の建物が倒壊し、火災が多発して甚大な被害が生じていることを想定して初期消火訓練、応急処置訓練などが行われました。



写真提供：(上・左) 気仙沼市立小泉公民館



夜の避難に備えて家族で確認しておくことってなんだろう。



ふだんから家族や地域の人と一緒に防災訓練に参加して、災害に備えておくことが大切です。

深めよう

家族で避難ルートを確認しよう。

避難場所まで実際に歩いてみよう。

歩いてわかったこと



車が多くて、心配。

そふぼ 祖父母といっしょに



写真提供：河北新報社

出がけに祖父が、「定川沿い道路が近道なんだけど、津波が来たときに川に近づくのは危ないよね」と話した。

実際に歩いて家族で確認できたこと

- 「ブロック塀が多い路地」や「車が多い道」などの避難ルート上の危険箇所。
- 迷いそうになる路地。
- 避難場所までの時間と家族の体力。
- 避難場所が満員だったり、危険が迫ったりした場合には、さらに内陸部の高い所を目指すこと。

参考：2013年2月21日付河北新報記事（提供：河北新報社）

つくりみよう

個人マニュアルをつくろう。

このようなポイントでつくり、備えておこう。

- 在宅中、通学途中の避難場所を知っておく。
 - どのようなときに避難するのか。
 - 家族で避難ルートを確認しておく。
- など



岩沼市の個人マニュアル(一部)